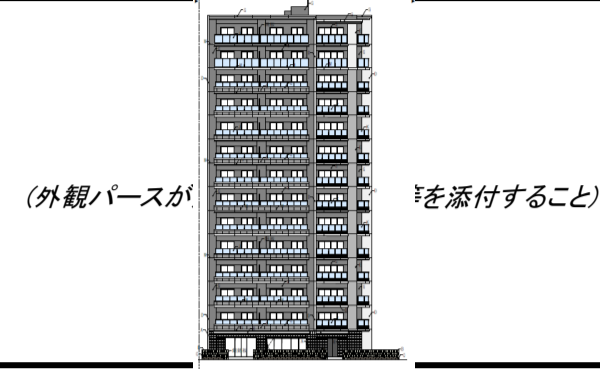


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)春日井市関田町計画	階数	地上14階
建設地	愛知県春日井市関田町一丁目34番	構造	RC造
用途地域	6地域	平均居住人員	117人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年8月2日
敷地面積	1,343 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社澤田建築事務所 代表取締役社長 澤田勉
建築面積	325 m <sup>2</sup>	確認日	2023年8月2日
延床面積	3,123 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社澤田建築事務所 代表取締役社長 澤田勉



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	72%
③上記+②以外の	72%
④上記+	72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">16.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)春日井市関田町計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.5</b>	
<b>1 音環境</b>									<b>3.0</b>	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									3.0	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
<b>2 温熱環境</b>									<b>3.7</b>	
2.1 室温制御									3.0	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
<b>3 光・視環境</b>									<b>3.7</b>	
3.1 昼光利用									3.0	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									3.0	
1 昼光制御									3.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
<b>4 空気環境</b>									<b>3.6</b>	
4.1 発生源対策									3.0	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									3.0	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									3.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.0</b>	
<b>1 機能性</b>									<b>3.1</b>	
1.1 機能性・使いやすさ									3.0	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									3.0	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									3.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.0	
1 躯体材料の耐用年数									3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									3.0	
2.4 信頼性									3.0	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	-	-	3.2	3.2	0.50	
1	階高のゆとり		階高2.91m	-	3.0	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>				1.0	3.0	1.00				
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.30				2.2
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	1.0	0.30				1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	3.0	0.40				3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.5	0.30				2.5
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	2.0	0.50				
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	3.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.3
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40				3.8
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			断熱等性能等級4	3.0	4.0	0.33				4.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	3.0	0.17				3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=0.87	3.0	4.6	0.33				4.6
<b>4 効率的運用</b>				0.1	3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-				
4.1	モニタリング			3.0	3.0	-				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	-				
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング			-	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			-	3.0	0.50				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30				2.7
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15				3.4
<b>1.1 節水</b>			節水便器を使用	3.0	4.0	0.40				
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-				
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	2.4	0.63				2.4
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	2.0	0.07				
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.24				
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.20				
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	-	3.0	1.0	0.20				
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	2.0	0.05				
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自		3.0	3.0	0.24				
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.0	0.22				3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	3.0	0.32				
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	3.0	0.68				
1	消火剤			-	-	-				
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	1.00				
3	冷媒			3.0	-	-				
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30				3.4
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	積極的な省エネルギー対策	-	4.1	0.33				4.1
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.3	3.1	0.33				3.1
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	3.0	0.25				
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	3.0	0.50				
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				0.2	3.5	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	住戸数以上の駐車スペースを確保、来客者用駐車場の確保	-	5.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	3.0	0.33				3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自		-	3.0	1.00				
2	振動	独自		-	-	-				
3	悪臭			-	-	-				
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制			-	3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			-	3.0	-				
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30				
<b>3.3 光害の抑制</b>				0.2	3.0	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30				

**重点項目スコアシート**  
 (仮称)春日井市関田町計画

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:16.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
 重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
 重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)春日井市関田町計画

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を大きく取り十分な採光を確保した。
Q2 サービス性能	住戸の階高を2.91m以上とし空間にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し住戸数以上の駐車場を確保した。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用した。
LR3 敷地外環境	駐車、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。